

# 1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 ----- )

事業所番号	0671900231		
法人名	社会福祉法人 南陽恵和会		
事業所名	こぶし荘認知症高齢者グループホーム こぶしの家		
所在地	山形県南陽市川樋508番地		
自己評価作成日	平成31年 2月 6日	開設年月日	平成14年 3月 1日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

恵まれた自然環境のもとで四季折々の暮らしを楽しんでいます。また、併設の特養や地域の皆さんの連携を頂きながら、のんびり和気あいあいと安心して過ごして頂いています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigokensaku.jp/06/index.php>

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	協同組合オール・イン・ワン		
所在地	山形市検町四丁目3番10号		
訪問調査日	平成 31年 3月 5日	評価結果決定日	平成31年 3月 11日

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所の重点課題として年間計画に「地域密着型施設として地域との連携をさらに深めること」を掲げ様々な地域行事への参加など交流を大切にしている。地域での認知症施設としての役割を自覚し、オレンジカフェやサポーター養成講座を通して、認知症の啓蒙を行い地域貢献も取り組まれている。一昨年目標達成計画のとおりアセスメントシートに気づきを追記する試みを実践し、また、重点目標に「様々なアセスメントの機会から把握した”人となり”をさらに理解する」ことを掲げることで、職員も利用者の思いを知ることの重要性を再認識し努力している。職員一人ひとりの目標とその実践内容を掲示し、理念の共有と実践に取り組んでいる。職員も各々の目標を掲げ、どうやってケアの質を高めていくか課題意識をもって取り組んでいる。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
55	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	62	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
56	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,37)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	63	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
57	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
58	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:35,36)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:48)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:29,30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
51	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>I. 理念に基づく運営</b>						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者の主体性を大切にした関わりを第一に掲げている。また、可能な限り地域との連携を図ることを目標としている。	法人の理念と事業所の目標を事務所内に掲示し、職員一人ひとりの目標とその実践内容を掲示し、理念の共有と実践に取り組んでいる。管理者は、職員に対し利用者の尊厳とそのため環境づくりを常に注意喚起している。職員も各々の目標を掲げ、どうやってケアの質を高めていくか常に意識し、日々のケアに努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	様々な地域の行事、催し等に参加しながら交流の機会を持っている。また、法人全体でも多様な面で地域の方々との協力体制が整っている。	事業所の重点課題として年間計画に「地域との連携をさらに深めること」を掲げ、小学校の運動会等への参加、夏祭り他、地域行事への参加など交流を大切にしている。オレンジカフェやサポーター養成講座を通して、認知症の啓蒙を行い地域貢献も取り組まれている。地域住民との防災等への協力体制も作られ、良好な関係が見られる。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	秋祭りでは、模擬店やステージイベントに地域の方々をご案内して一緒に楽しんでいる。また、法人全体が様々な地域の窓口となっている。サポーター養成講座やオレンジカフェの開催もその一環として捉えている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の生活の様子についてや、職員の資質向上、環境整備他、多岐にわたる内容で話し合いをしているが、サービス内容に満足していただけているかの判断にも役立っている。	民生委員、市職員、家族等必要な関係者を交え2か月に1回開催されている。利用者の状況や事業所の行事、研修、環境整備等が報告され、オレンジカフェやサポーター養成講座、秋祭り、防災訓練等について意見が表され、サービスの向上に活かされている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護保険関連や生活保護受給者への支援、入退所状況の定期報告、行政の取り組みの利用についてなど、関わりのある市担当職員と協働して取り組んでいる。サポーター養成講座、オレンジカフェについては連絡会にも所属している。	運営推進会議に出席頂き実情報告が行われているとともに、キャラバンメイト連絡会、オレンジカフェ連絡会等市と協働して事業を行う等、良好な関係が築かれている。利用者に係る個別具体的な問題等は、窓口と連絡を取り合い問題解決に向け努力している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	法人として委員会を設置しており、定期的にその理解と検討の場を設けている。危険度を考慮しながら、可能な限りの拘束防止に取り組んでいる。	法人の身体拘束廃止・虐待防止委員会で定期的に事例等検討が行われている。毎年研修も行われ職員に周知している。職員は、利用者によくかわり、危険を引き起こす原因や安全確保のための方法を話し合い、寄り添いながら見守ることで、鍵をかけないで過ごすことや、不適切な対応等ないように支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人として委員会を設置して随時、検討を行っている。会議や職場内研修会等で、随時の勉強会や確認の場がある。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際に成年後見人が関わっている事例があり、都度学ぶ機会になっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の前には、実際にホームを内覧して頂いたり、細やかな説明に努めている。解約時は、その後の生活に不安の無いよう整ってから合意のもとで行うようにしており、利用者、家族の意向を大切にしている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	窓口、およびその担当職員を明示しており、サービス利用開始時に家族等に説明している。また、玄関ポーチに掲示。	事業所の掲げる年間計画に管理者及び担当職員と家族との関係を「協力と信頼」と位置づけ、面会等家族と関わる場合は、積極的に利用者の状況報告を行い安心感に繋げることや、行事に参加して頂き一緒に過ごすことを大切に、良好な関係を作り、意見等表しやすい関係を大切にしている。		
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常に資質向上を念頭に掲げ、ホームの状況把握にも熱心である。職場内研修会等、人材育成にも積極的である。			
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	一人一人に合った時間や条件の配慮がなされている。自主性を重んじ、職員間での協力と調整力は上手く機能している。			
13	(7)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	行政や関連機関主催の研修会への参加と、職場内研修会の開催。また、個々にコーチングする機会を確保している。	一昨年の目標達成計画に従い、職員の個人目標とその実践方法を一人ひとり掲げている。管理者等は職員への取り組みを見ながら必要に応じて指導している。法人による研修会と事業所での実情に応じた研修、職責に合わせた外部研修等学ぶ機会を大切にしている。		
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	認知症介護に関わる研修受講や、情報交換の機会をつくりながら更なる資質向上に取り組んでいる。	キャラバンメイト連絡会やオレンジカフェ連絡会を作り地域の事業所と連携し事業を行っている。また、地域の他のグループホームとネットワークを作り交流の機会を検討している。		

Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	特にコミュニケーションを多くとりながら、早く馴染んで頂けるよう関わっている。家族にも当初は特に多めの関わりをお願いしている。入所されて概ね1か月経過した頃に、カンファレンスを開催している。		
----	--	---	--	--	--

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	時間と場所を設定しながら、対話出来る機会を大切にしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用開始までに事業所側として行うべきこと、対応すべきニーズの把握に努めている、多職種連携など必要に応じて行っている。家族には「わかり易く」をポイントに整理して伝えた承を頂いている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	管理者は「もう一つの自分の家」という感覚である。利用者も職員もお互い「もう一つの家」だったり「家族」だったりそんな状況や場面がある。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の負担を軽減することは重要だが、決してゼロにすることではないと考える。本人にとって家族は永遠であり、入所後もその絆はかけがえのないものとしてご理解頂いている。		
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	多くのことを家族から教えて頂いている。職員も家族も本人を主体に考えることを最重要としている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	馴染みの関係がここでも存在しており、輪の中に職員が入って更に輪を丸く大きくすることや、大切に見守ることを意識している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	安心感の持てる退所を心がけている。退所後に必要な援助策を明確にしながら、利用者にも説明し家族との合意ですすめている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活歴や習慣、趣味等、環境が変わってもそれを最大限継続できるよう考えている。また、日頃の関わりから可能性を見出したり、得意分野での役割やどう暮らしたいかを大切にしている。	一昨年の目標達成計画のとおりセンター方式のシートに気づきを追記する試みを実践している。事業所の重点目標に「様々なアセスメントの機会から把握した”人となり”をさらに理解すること」を掲げ、職員も利用者の思いを知ることの重要性を再認識し、職員間で話し合い利用者の思いを大切にしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	多くのことを家族から教えて頂いている。職員も家族も本人を主体に考えることを最重要としている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活歴や習慣、趣味等、環境が変わってもそれを最大限継続できるよう考えている。また、日頃の関わりから可能性を見出したり、得意分野での役割やどう暮らしたいかを大切にしており、本人、家族、職員等様々な対話から把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族に教えて頂いたもの、関わりの中で見えてきた可能性を大切にしながら作成している。	3ヶ月ごとモニタリングを行い、サービスの実践状況や計画の評価が行われている。サービス担当者会議や家族の意見を踏まえ、6か月毎計画の見直しが行われている。利用者の思いを大切に、趣味や得意分野を取り入れ、暮らしの支援を大切に計画が作られている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員ノート、ケース記録、健康管理に関する記録等の活用を行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>児童館や小学校、公民館などに出向いたり、来荘頂いたりとの交流を図っている。その他、地域住民と防災等に関わる訓練や会議、多様な協力体制の中でご理解とご協力を頂いている。</p>		
29	(11)	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>かかりつけ医との連携により細やかな相談や助言を受けられる体制がある。</p>	<p>協力医療機関への定期通院は事業所が、その他専門医等への通院は家族と話し合いの上通院支援が行われている。近況報告書には、日中の状況、夜間の状況、身体状況などが記載され、医療機関への情報提供がなされている。受診結果等は速やかに家族へ報告されるとともに、受診関連ノートにより職員間で共有されている。</p>	
30		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>かかりつけ病院の看護師や併設の特養看護師との医療連携により、アドバイスを受けながら、安心な医療面の支援が提供できている。</p>		
31		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>家族とともに医療機関と連携をとり、情報交換や可能な限りの支援を行っている。</p>		
32	(12)	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入所時や状況に応じて、重度化対応に関する説明を行っている。家族とともに医療機関と連携をとり、情報交換や可能な限りの支援を行っている。</p>	<p>早い段階から重度化について話し合いが行われ、状態に応じて繰り返し話し合いが持たれている。グループホーム重度化対応委員会で、利用者の希望を尊重し、ギリギリまで事業所で支援できるよう、連携する施設と話し合いが持たれている。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人で行う研修や訓練への参加(救護、感染症対応、AEDなど)。外部開催の講習会への参加。		
34	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練実施と、防災協会を中心とした協力体制づくり。ホットライン体制、行政との連携など。	年2回避難訓練が行われている。消防の協力や地域住民の協力が得られている。1回は実際に利用者を避難誘導し訓練している。水害や土砂災害への対応も検討されている。地域の避難場所にもなっており、その使命と役割を自覚している。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
35	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	法人の理念、職員の目標として掲げており重要視している。	利用者一人ひとりのペースやその環境作りを通して、人格の尊重を大切にしている。職員は一人ひとりの自由を大切に普段から接している。不適切な対応等の無いように職員間で話し合い注意している。	
36		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表現したり、自己決定できるように働きかけている	対話やそれ以外のコミュニケーション、一緒に過ごす時間、さりげなくいつも近くに誰かがいることを大切にしている。		
37		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースを大切にしている。起床、食事や入浴他、できる限り意に添っている。		
38		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類や美容品は家族に協力を得て、その人らしさ(好み)を大切にしている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員も一緒に食事をしている。入居者の状態に合わせて、援助しやすい位置に職員が座り全体を把握している。	利用者の希望を取り入れながら3食事業所内で調理し、利用者にもかかわって頂き家庭的な食事になるよう支援している。季節ごとの行事食や外食なども企画され食事を楽しむことができるよう工夫されている。	
40		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立が重ならないよう、栄養が偏らないよう工夫している。また、管理栄養士の協力を得てカロリー計算を依頼する他、献立についてもアドバイスをもらっている。		
41		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	義歯管理と合わせて洗面時と就寝前に口腔ケアを行っている。また、日中帯も状態に合わせて支援している。歯科衛生士との連携も次年度の重要方針としている。		
42	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	利用者一人一人の排泄状況を記録し、排泄パターンを把握した援助を行っている。オムツ、パット使用者もできる限りのトイレ排泄を援助している。	排泄チェック表を基に適時の声掛け誘導でトイレでの排泄に努力している。介護計画で排泄支援を位置づけ評価を繰り返し自立に向けた支援を行っている。日中はなるべくおむつをせず、リハビリパンツを使用し、出来ることを大切にしている。	
43		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	主治医に相談しながら、本人の状態に合わせた対応を考慮している。		
44	(17)	○入浴を楽しむことのできる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	一人一人に合った希望やタイミングまた、必要性を重視しながら、それに応じた入浴の援助を行っている。	利用者の希望を尊重しながら入浴の支援を行っている。身体状況に応じて隣接施設の機械浴等も使用し安全に入浴できるよう工夫している。入浴を好まない方にも、職員間で連携し声掛けや誘導を工夫し、清潔を保てるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
45		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の生活習慣を把握しており、日中でも休息の時間を確保している。			
46		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	バイタルチェック他、症状の変化等は全員分記録され、主治医への報告にも繋げている。主治医との密な連携により内服薬は処方される。処方薬の明細はファイルしていつでも確認できるようにしている。			
47		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	職員からの誘いも重要だが、それぞれの得意分野を把握して関わることをしている。			
48	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	地域交流、バスハイク、定期受診など。家族との外出は本人、家族の希望を最優先し支援している。重度化などの理由にて外出が困難な場合は、面会をお願いしている。	季節に応じたバスハイク、地域交流としての催しへの参加等外出の機会を大切にしている。外出の支援を重点課題にも掲げている。散歩や畑、プランターを使用した菜園、花作り等、外気に触れる機会も大切にしている。家族の協力を得ながら、墓参りや帰省等の支援も行われている。		
49		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるよう支援している	本人や家族の希望をふまえて支援をしている。管理の委任や管理が困難な場合は、職員が出納を明らかにして了承を得ている。			
50		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話で家族と会話して頂くことや、携帯電話の持込による対話の援助。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
51	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	木目調のものが多い建物の内部は、とても落ち着いている。ホールでの家事や趣味活動、お茶等、のんびりとした時間が流れている。テレビ鑑賞しながらの対話、団欒している場面もみられる。	居間食堂は、広く温度や湿度が管理されているとともに、清掃も行き届き清潔感がある。季節感のある飾りつけや、利用者の作品等が掲示されている。畳敷きの部分があり思い思いに過ごせる空間である。職員と会話が弾む笑い声の多い空間であった。		
52		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールはテーブルを3台設置。隣には居間(和室)もあり、自由な空間で過ごせる環境となっている。			
53	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた生活用品や装飾品の持ち込み、居室のレイアウト等は、家族にもお願いしている。	馴染みのものの持ち込みや思い出の写真の掲示、家具等の配置など、利用者が居心地よく過ごせるよう支援している。		
54		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	生活歴や習慣、趣味など、環境が変わってもそれを最大限継続できるように考えている。また、日頃の関わりから可能性を見出したり、得意分野での役割やどう暮らしたいか(個性)を大切にしている。			